

作成日 2012年07月27日
改訂日 2026年07月09日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	イオンパワーS (Ion Power S)
会社名	株式会社フェムテック
住所	東京都荒川区西日暮里2-50-5
電話番号	03-5615-3232
緊急時の電話番号	03-5615-3232
FAX番号	03-5615-3233
メールアドレス	info@femtech.co.jp

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分4
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分5
	急性毒性(経皮)	区分5
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A

* 上に記載がない危険有害性は、「分類対象外」または「分類できない」である。
GHS分類に該当しない他の危険有害性は医師の診察を受けること。

ラベル要素

絵表示



注意喚起語
危険有害性情報
注意書き
予防策

警告
皮膚刺激。強い眼刺激。

応急措置

使用前にすべての安全注意をよく読み、理解した上で正しく使用すること。
保護メガネを着用すること。
保護手袋を着用すること。
ミストを吸入したり飲んだりしないこと。
環境への放出を避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

目に入った場合は、すぐに流水で15分以上洗い流すこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、同様に洗い流すこと。本品持参の上、直ちに眼科医の診断を受けること。

吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。すぐに医師の診断を受けること。

万一飲み込んだ場合は、すぐに水で口をすすぎ、多量の水を飲ませ無理に吐き出さないで、本品持参の上、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚(または毛)についた場合は、水でよく洗い流すこと。衣類についた場合は、すみやかに脱ぐこと。

汚染された衣服を再使用する場合は洗濯すること。

異常がある場合、または気分が悪い場合は、直ちに医師の診断を受けること。

換気の良いところで保管すること。涼しい所に置くこと。できる限り縦置きにすること。内容物/容器を現地/地域/国/国際法律に従って処理する。

保管
廃棄

3. 組成及び成分情報		
化学物質・混合物の区別	混合物	
化学名又は一般名	アルカリ電解イオン水・クリーナー	
製品説明	液体状の洗浄剤	
成分	アルカリ電解イオン水 (30 - 40%) イソプロピルアルコール (10 - 20%) 水 (30 - 40%) 1%未満の添加剤として、ノニオン系の界面活性剤2種、グリコールエーテル類2種、アルカノールアミン類2種と着色剤を含む。	
内	イソプロピルアルコール	CAS番号: 67-63-0
	アルカリ電解イオン水 添加剤成分	官報公示整理番号 2-207 該当なし 微量のため、対象外
4. 応急措置		
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 多量の水またはぬるま湯で洗うこと。その後外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は医師の診断を受ける。 清浄な水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。付着したまま放置すると、強い刺激が続く恐れがある。すみやかに眼科医の手当てを受ける。 無理に吐かせないこと。水で口の中をよく洗浄し、コップ1-2 杯の牛乳又は水を飲ませる。すみやかに医師の手当てを受ける。	
皮膚に付着した場合		
目に入った場合		
飲み込んだ場合		
5. 火災時の措置		
消火剤	初期消火には炭酸ガス、粉末消火器、泡消火器等を使用する。 データなし 消火作業は、可能な限り風上から行う。 漏出した物質や消火用水等が、河川等に排出されないように配慮する。 関係者以外は速やかに安全な場所に退去させる。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。	
使ってはならない消火剤		
特有の危険有害性		
消火を行う者の保護		
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	作業の際、保護メガネ、保護手袋、等の保護具を着用する。 薬品が河川等に排出されないように注意する。	
環境に対する注意事項		
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 アルカリ性なので酸性の製品と接触しないようにする。	
安全取扱い注意事項		
保管		
保管条件		
8. ばく露防止及び保護措置		
管理濃度	【安衛通知】(67-63-0) 管理濃度 200 ppm 400ppm TLV-TWA 200ppm	
イソプロピルアルコール		
日本産衛学会(2021年版) ACGIH(2019年版)		

設備対策	手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼設備を設置すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
9. 物理的及び化学的性質 外観	形状 色 臭い pH 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲 引火点 燃焼点 自然発火温度 爆発範囲 比重(密度) 溶解度	液体 うす緑色透明 特異臭 約11～11.5 データなし データなし タグ密閉式自動引火点試験器(JIS K2265-1-2007)によると、引火点は36℃ クリーブランド開放式引火点試験器(JIS K2265-4:2007)によると、持続燃焼なし データなし データなし 約1.0 水に溶解
10. 安定性及び反応性 安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物		通常の取扱い条件においては安定である。 データなし データなし データなし データなし
11. 有害性情報 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・刺激性 発がん性		刺激性あり 強い眼刺激性 発がん性物質として認定されていない。 IARCの発がん性物質に認定されていない。
12. 環境影響情報 水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性		情報なし 情報なし
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物 汚染容器及び包装		廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意 国際規制 海上規制情報 航空規制情報 国連番号 品名 国連分類 容器等級 国内規制 陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報		IMDGの規則に従う。 IATAの規則に従う。 該当なし 該当なし 該当なし 該当なし 消防法、労働安全衛生法に定められている運送方法に従う。 船舶安全法に定められている運送方法に従う。 航空法施行規則 第194条(第1項)第三号に該当しない。
※第9章の試験結果(JIS K2265-4 : 持続燃焼性なし)に基づき、国連輸送規則および国内消防法の危険物には該当しないものとして分類している。		
15. 適用法令 労働安全衛生法		通知対象物質(イソプロピルアルコール)

消防法

該当しない(JIS K2265-4 による持続燃焼性試験において非持続性物質と判定されたため、危険物から除外)

16. その他の情報

- ・この情報は新しい知見にもとづき改廃されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険性、有害性等に関しては、十分な保証をなすものではありません。
- ・注意事項等は通常の実施を前提としたもので、特殊な取扱いの場合には、用途、使用方法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

危険性評価試験結果書

依頼者		株式会社フェムテック
試験の種類		危険物第4類(引火性液体)：引火点測定試験（タグ密閉式）
試料		S1(IPA濃度13%)
試験	測定装置	タグ密閉式自動引火点試験器（JIS K2265-1-2007）
	測定方法	上記の規格に定められた方法による。
受付番号 (受付年月日)		C13-153（平成25年10月8日）
試験結果		別紙（1/1）のとおりです。

平成25年10月00日

公益社団法人 産業安全技術協会長 永石 治喜

試 験 結 果

依 頼 者：株式会社フェムテック

試 料：S1(IPA 濃度 13%)

試験条件：温度 25℃，湿度 64%，気圧 1009hPa

温度* (℃)	1 回	2 回
30.0	×	×
30.5	×	×
31.0	×	×
31.5	×	×
32.0	×	×
32.5	×	×
33.0	×	×
33.5	×	×
34.0	×	×
34.5	×	×
35.0	×	×
35.5	×	×
36.0	×	○
36.5	×	—

○：引火有り，×：引火無し

*) 温度は標準気圧への補正済みの値

以上の結果, 測定引火点の平均値は 36.25℃となる。一方, 本試験規格 12 項の指定する丸め幅 0.5 を適用すると, 本試料の引火点は 36.0℃となる。

危険性評価試験結果書

依頼者		株式会社フェムテック
試験の種類		危険物第4類(引火性液体)：燃焼点測定試験 (クリーブランド開放式)
試料		S1(IPA濃度13%)
試験	測定装置	クリーブランド開放式引火点試験器 (JIS K2265-4:2007)
	測定方法	上記の規格に定められた方法による。
受付番号 (受付年月日)		C13-154 (平成 25 年 10 月 8 日)
試験結果		別紙 (1/1) のとおりです。

平成 25 年 10 月 00 日

公益社団法人 産業安全技術協会長 永石 治喜

試 験 結 果

依 頼 者：株式会社フェムテック

試 料：S1 (IPA 濃度 13%)

試験条件：温度 25℃，湿度 64%，気圧 1009hPa

温度 (℃)	1 回	2 回
78	○	○
80	○	○
82	○	○
84	○	○
86	○	○
88	○	○
90	○	○
92	○	○
94	○	○
96	○	○
98	○	○
100	— ¹⁾	— ¹⁾

○：引火するが、燃焼には至らない²⁾

¹⁾ 含有水分(水分量 87%)の沸点であるため、測定不可である。

²⁾ 本試験の規定によると、引火及び燃焼の定義は次のとおりである。

引火：「規定条件下で引火源を試料蒸気に近づけたとき、試料蒸気が閃光を発して瞬間的に燃焼し、かつ、その炎が液面上を伝播する」こととしている。

燃焼：「規定条件下で引火源を試料蒸気に近づけたとき、試料蒸気が閃光を発して瞬間的に燃焼し、かつ、5 秒間以上継続的に燃焼する」こととしている。